

プリムラ山の会(通巻81号) 2010年09月17日発行 発行人:大坪邦久
編集/デザイン:ミズノデザイン 発行所:東京都八王子市散田町3-38-6B
primula.ac@gmail.com <http://primula.mizunodesign.com>

PRIMULA CUNEIFORIA BULLETIN

81

● プリムラ山の会
Primula



クーロワール65	002
In A Shot (岡 孝雄)	003
80号の特集 涙が出た山行。	004
春山から夏山までのプチ記録(市瀬 江利子)	005
谷川・一ノ倉沢烏帽子沢奥壁南稜(平 真里)	008
やっぱ谷川。南稜でも残業朝帰り。(水野 奈保美)	012
南稜下山遅れについての見解(リーダー部)	014
毎年定番化した「尾瀬」山行(浅井 邦夫)	015
稲子岳南壁左カンテ(市瀬 江利子)	016
稲子岳南壁左カンテ(平 真里)	019
劔岳VI峰Cフェース剣稜会ルート(市瀬 江利子)	021
劔岳VI峰Cフェース剣稜会ルート(平 真里)	024
この夏の増水、いずこも同じ…(初鹿 裕康)	028
天気に恵まれなかった聖岳(山里 守広)	030
景色を見ながら！3年ぶりのトライアスロン(初鹿 裕康)	032
復活・なほみさんのいつまでたってもうまにならない クライミング日記 (水野 奈保美)	036
山行一覧 (2010年5月8日～8月29日)	039
編集、後記。	040

先の目標が立てられなくて、前に進めないとき、
 まずは、すぐそばのできるところから、
 今の自分にできる範囲でやって行こうと思うけど。
 でもそうやって、とりあえず、目の前のいろんなものを詰め込むと、
 ふとした時に、寂しい気持ちになることがある。

本当は、目標の山に、まっしぐらに進めたら、どんなにか楽しいか。

考えただけでも、ドキドキする。

ただそれは、山が好きだから、行きたいから、というだけでは決められなくて。

自分にとって、何が一番大切なのかを考えてみるけど、

答えは日によって違ったりして。

そしてまた、とりあえず、すぐ目の前の目標へ……

忙しさの中で、いろいろと言いつつ、考えるのをやめてしまう。

いつか目標の山にまっしぐらに進める時が来ればいいと思う。

それを目標に、今はすぐそばの目標を消化していく。

でも、それもやっぱり言いつつなのかな。

誰だって未来のことはわからないから。

白きアルパマヨ

2010.06.20 撮影



航空機に乗っているだけで24時間！長かった。日本の反対側、ペルー・アンデスに行ってきた。20歳代の頃、「ヒリシャンカ・6094m・南東壁・73年東京草露登高会」「イエルパハー・6617m・三角状岩壁・75年・岡山クライマーズクラブ」初登攀等の記録が『岩と雪』に発表され、大いに刺激を受けた。いつかは俺も！と思いながらも、年齢ばかり重ね情熱は醒めていった。

当時の登山界は、ヒマラヤのジャイアンツのヴァリエーションルートから登頂時代が始まり、合わせて、標高は下がるものの、より困難なルートからの登頂が、ヨーロッパアルプス・アンデスで実践されていた。国内ではその目標に向けた登山がなされ、一部の限られた人でなくても、新たな試みが出来る時代になった！

こんな若き日の想いが、登山でなく写真撮影という形をとって実現した。それも馬の背に揺られながら！

アルパマヨ・5947mは、1976年ドイツ山岳会が行った人気投票で「世界で一番美しい峰」として選ばれた。確かに三角又は四角錐で、急峻な懸垂氷河に支えられた白い

山容は、均整が取れ美しすぎる。写真撮影では日本人としては3隊目くらいの、登山用BC入りだった。比較的日程にも余裕があり、ましてや馬とロバを使ったアプローチ(5040mの峠越え・悪路の歩行などを除く)(今回ガイドをお願いした佐藤さん・73年東京朝露登高会メンバーが行っている企画)は撮影に集中でき体力的にも中高年には良かった。

ただ10時頃にならないと日が射さず雲が湧いてしまう。出来るだけ、氷河の立体感と質感のある写真を撮りたくて待機するも、自然は思うようにはなってくれない。アングルの満足は出来ないが(山頂が真中・右上の空間)日中の物・山容全体を現した物としては、これ以上のカットはなかった。他の山岳で気に入った撮影が出来たので、今回の山旅はこれでよしとしましょう。

三度目の正直！！岡のこれまでの登山で目標にしていた登山が完成したのは、多くは三度目だった。写真でも同じか……！？

81号の特集 涙が出た山行。

山で涙を流したことなくってあったっけ？
というような感じなのでないかも。辛い
山行は数々あれど、涙は流れません。(H)

長く生き、長く山へ行っても、山行で涙の出
たことはそう多くない。ポケて思い出せないわけ
ではないです。

確か3回かなー！1回は、1977年7月
の穂高滝谷のデビュー戦、メジャー
な4尾根での話。マッキンリーへ行く
ための訓練山行として夏合宿で行っ
た。最終ピッチのDカンテを乗っ越し
て終了の場面、パーティーのドン尻
でみんなカンテを越え見えなくな
り、私が繋がっている一本のザイル

が上に伸び、一人私だけがポツンと合図を待って
いた。待てど暮らせど合図は無い、先は見えぬ風
もそこそこあり声が聞こえない。随分長く待った
末、ザイルが強く引かれ登れの合図。この時は精
神的に落ち込んで涙を出した覚えがある。

2回目は、これも前者の訓練山行で、冬の八ヶ岳阿
弥陀岳北西稜登攀の時のこと。先行パーティーの
セカンドO氏が、核心部をアプミを使いながらア
イゼンをガリガリ鳴らして越えようとしている
所に私がトップで接近。ヤバイ！と思った時には
遅く、O氏が後ずさりしてきて私が手を置いてい
る上に足が、これは涙が出ました。

3回目は、1981年7月14日？、パキスタン、ディラ
ン北稜上のC3でのこと。アタック中止となっ
ての夜、ウォークマンで谷村新司が歌う「昴」を聞いて
大泣きした。

最近ほとんど山に行けていない。気持ちを洗うた
め、汗や涙を流しにまた山に行かなくてはね。(A)

悲しき6月
思い出してみると
kaiとたくさんの山に行った
都会よりも自然のなかを喜んだ
富士の雪面を疾走する
滝子山の沢で水と戯れる
天狗岳の山腹でカモンカを追う
あれから3ヶ月
今となつては
涙が出そうになる場面たち(K)

1981年パキスタンディラン遠征で、5,730m地点
の登山終了時。悔やしくて、山に賭けてきた成果が、
あっさりとして終止符を打たれたことがむなしくて、涙
があふれた。今来たトレースをたどるなか、夕陽に
光る山々は、下界では味わえぬほど美しかった。(O)

うれしくても悲しくても山で
泣いたことはない。そんな感情
とは無縁のところにいるから
だろう。(T)

ネパールでアタックキャンプまで
行ったのに、頂上まで行けなかつ
た。ベースキャンプに戻りアタック
隊が戻って来たのが見えた時、悔し
くて涙が止まらなかった。(E)

ノーズを登って、エルキャピタンから
重～いギアを背負って、長～いヨセ
ミテトレールを下りてようやくキャ
ンプ4(キャンプ場)が見えてきた時。
ノーズ上部のヘッドウォールの輝く
白い岩の海を思い出すとき。(M)

春山から夏山までの プチ記録

唐松岳頂上にて

市瀬 江利子

富士山山スキー(富士の宮口より)

日程:2010年5月15日

メンバー:小堀、初鹿、山里、平、市瀬

ずっと、富士山からの滑降を夢見ていたの
に、天候に恵まれず、実はまだ頂上から滑った
ことがなかった。

小堀さん、平ちゃんは早朝に立ち、残りのス
キー組は、「雪が緩んでからでないとい滑れない
しね」と言いつつ遅めの出発。富士山はとにか
く滑落が怖いイメージ。でも、この日は順調。

頂上までのほんのちょっとの部分が、凍っ
ていて危なかった。アイゼン持ってきていな
いボーダーは、見ているほうが怖い。

滑りはというと、上部は硬くてガリガリ、下
部は広大な斜面を雲海に滑り降りる感じで、
山スキーヤーが富士山のとりこになるのも納
得。でも、登りに比べて下りはあっという間。
登りの真ん中(8合目くらい?)で、すれ違った、
小堀さん達2人は、寒い車で凍えて待っていた。
長いこと待たせてすみません…。



雲海に向かって滑り降りる山ちゃん



八方尾根から唐松岳

日程:2010年5月22日

メンバー:初鹿、平、市瀬

どこか簡単な山スキーが(まだ)できると
ころ、ということで、こんな時期でもリフトの使
えた八方尾根へ。

実は八方尾根のケルンも見たことがなくて、
一度見てみたいと思っていた。不帰東面の下
見もできるかな？なんて思っていたら、はっ
ちゃんがまだ登れるかな？と言っている。結
果的に止めたけど、見た感じ雪も大分落ちて
いて全く無理な感じでした。いつか登って
みたいなあ。

初日は普通の観光客もいる中、目立つ高台
にテントを張り、頂上までピストン。スキーは
稜線への急登手前にデポして唐松岳へ。帰
りのスキーは、短かったけど、雪がしゃりしゃ
り滑りやすく、誰もいない斜面を楽しく滑
ることができた。平ちゃんは歩き。でも歩
きでも気持ち良さそうだった。さて、宴会
をして翌日はゆっくり朝食を取って…なん
て思っていたのに、夜半からテントも飛
ばされそうな強力な風に前後左右から叩
きつけられて、朝食を作るどころではな
かった。やっとのことでテントをたたんで
下山しました。



雪の落ちた不帰東面



テールリッジから見上げる衝立岩



二日酔いで吐きそうなのはっちゃん
(谷川でそれはやばいでしょ)

一の倉沢 中央稜&南稜

日程:2010年5月29日

メンバー:小堀、初鹿、水野、平、市瀬

もともと変形チムニー予定の3人、小堀さん、はっちゃん、私は岩が濡れていた為、中央稜へと転進。

最初の2pを私がリード、その後の3ピッチを小堀さんがリード。しかし、最初の2p結構難しかった。こんなに難しかったかなといいながら登る。私の後にきたおじさんとおぼさんのパーティ(2p目で降りていった)も、しきりにそう言っていた。やっぱり濡れていたせいかなあということにして、後のピッチは小堀さんをお願いした。

ラストで登っていた私たちを途中で何パーティもが懸垂待ちをしていた。上部のピナクルまで行き、3回の懸垂で降りる。テールリッジに着き、南稜に行っている水野さん、平ちゃんにコールすると、ガスの中、返事が返ってきた。一安心して、私たちもテールリッジを下り始める。

下に着くと、小堀さん、はっちゃんがお風呂&買出しに。私は一緒にお風呂に入るからと、南稜の2人を待つことに。ところが、いつまでたっても帰ってこない。辺りはとっくに暗くなり、周りのテントで宴会が始まる。うろろうしながら動くヘッドランプを今か今かと待

つ。雨も降り出し、とにかく寒いので、出合の雪渓が見える場所まで、車を出し、中でシュラフを被りながら待つ。

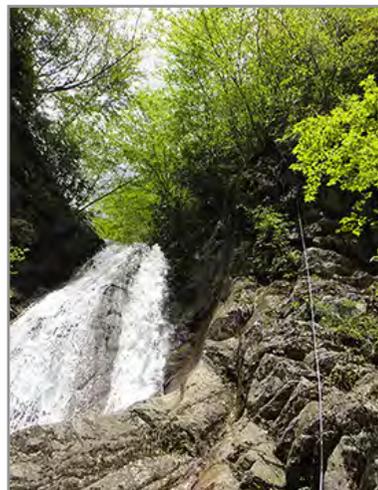
雪渓の下りで時間かかっているのかもしれない、でも遅すぎる。時間が長く感じ、小堀さん達が帰って来たときはほっとした。2人はとにかく見に行くというので、またまた私は待つことに・・・続きは、その他、原稿にて。

井戸沢 (那須)

日程:2010年6月6日

メンバー:初鹿、市瀬

あまり行くことのない、那須のほうの沢。どこか、藪漕ぎがなくて、簡単で短くて、景色も良くて、と言っていたところ、この沢が候補に。下部は一箇所ザイルを出すところがあつたが、上部は滑のある綺麗な沢だった。上部の雪渓はちょっと急で怖かったけど、藪こぎもなく笹藪の稜線も素敵だった。



たまにはリードするはっちゃん



平ちゃんを確保する山ちゃん (10m 滝にて)

川場合

日程:2010年7月17日~19日

メンバー:初鹿、山里、平、市瀬

初心者も連れていける沢。しかも1泊でも行けるところを、2泊で計画。釣りをしながらのんびり廻行するはずだったのに、水量が多くて、どの滝も突破に苦勞し、結果3日でもぎりぎりに。この水量で初心者どうして行くのは無理です。しかも、下山も長かった。自転車で車を回収しに行ってくれた、山ちゃんに感謝です。そういえば、この沢でも平ちゃんが滝つぼに落ちていた。トラウマかなあ・・・。

南ア・遠見川池口沢

日程:2010年8月13日~15日

メンバー:初鹿、北原、平、市瀬

南ア信濃河内沢に行くはずが、連日の雨で廻行できないと判断し、池口沢へと転進。しかし、ここも水量多く、小滝の連続がゴルジュになっていたり、初めてヒルの攻撃にあつたりと、簡単なはずの初日から大変だった。二日目は多少濁りは少なくなったが、とにかく流れが強くて、渡渉も大変。スクラムを組んだりもするが、一步一步慎重になるので、なかなか先に進めない。猛烈な水量の滝をなんとか突破しながら進んでいく。そして、ゴルジュ内の滝で、ザックを前に泳いで滝つぼ脇に取り付こうとしたところ、ザックが滝つぼに巻き込まれ、くるくると回っているうちに、雨蓋のチャックが水圧で開いてしまい、中の物が全て流



平ちゃんを確保する北さんとお助け紐を準備するはっちゃん

れ出てしまった。財布と携帯は幸運にも、下にいた平ちゃんに拾ってもらえたが、ヘッドにラジオ、釣竿に、カメラのバッテリー、のこぎりに、途中で、やっと釣り上げた小さな岩魚までも、滝つぼに沈んでしまった・・・ショックでしばし呆然。

同じ場所でヘルメットを流してしまっただはっちゃんも、横でずっと悔しがっている。あーしかし、ショックだった。まあ命を流さなかったからよしとしよう。でもやっぱりショックだ。3日目、今度は平ちゃんが(また)滝つぼに落ちる。見ると、ザイルに掴まりながら、滝つぼで水流を浴び、「ぐ、ぐるじい」と言っている。死にそうな顔で言われたので、上で確保していた私とはっちゃんは心底びっくりして、ザイルをひっぱたり、はっちゃんが様子を見に行ったりしたが、ちょっと横にずれたら足が着いたらしく事なきを得た。

しかし、平ちゃんあの時の顔は、思い出すたびに笑いが止まらなくなってしまう・・・(ごめんね)。ということで、いろいろあつた沢でした。

谷川・一ノ倉沢 烏帽子沢奥壁南稜

平 真里



日程:2010年5月29日(～30日)
山域:上越・谷川岳
メンバー:水野、平

あのハングの先が南稜テラス

5月29日(土)曇りのち雨

一ノ倉沢出合(06:00)---テールリッジ(07:00)---
中央稜取付(08:00)---(待ち)---南稜テラス
(08:30)---終了点(13:30)---南稜テラス(16:30)---
テールリッジ上部(20:30;泊)

前日夜発。変形チムニーの登攀を予定していた小堀、初鹿、市瀬隊と一ノ倉沢出合までいっしょに行く。小堀さんのみ風邪のため、当日朝、現地待ち合わせになった。出合の駐車場でテントを張り、軽い宴の後就寝。就寝後も数台、車が来た様子だった。

4時半に起きた。いつものように誰も起きないので、寝具を片付けて朝食を済ませるが、時間が余ってしまった。5時ごろにしびれを切らして起こしにかかる。小堀さんも到着した。テントを撤収して、ギアの整理などしていたら、早くも6時。5人揃って、車道の脇まである雪渓を登りにかかる。雪はしまっていて、冬靴の私以外は、アプローチシューズで登っていた。

1時間程度でテールリッジの手前に着いた。ここで、クライミングシューズに履き替える。フィックスロープが張ってある壁を登って尾

根に乗り、樹林帯を抜け、豊富なホールドをつかんで登る。岩もそこそこ乾いていた。眺めの良いところで、ひと休み。鎌形ハングの下あたりに、人がたむろしているのが見えた。私たちが最後だろう。

中央稜取り付きから、とりあえず南稜テラスに向う道をトラバース。南稜はすでに5人パーティが取りついていて、その手前には、5-6人の若人が待っていた。順番待ちか。変形チムニーは、染み出しがひどく登れない。中央稜を登るか、南稜へ5人で登るか。そのうち、南稜テラスで順番待ちかと思われた若人組が、トラブルとかでこちらに先に行ってくれという。決断を迫られて、3人は中央稜へ、水野さんと私が南稜へ向った。

南稜テラスで、冬靴、アイゼンなど不要なものを捨ておき、アンザイレンした。先行者が1ピッチ目で切ってビレイしているのが目に見え。そこから登り始めるのが見えて、こちらも出発。水野さんリード。岩はところどころぬれていてイヤな感じ。手足の効きを確かめながら登る。チムニーの手前で先行者と同様ピッチを切った。

2ピッチ目、チムニーを登る。中はしっかりぬれていた。水野さんリード。ザックが邪魔、と言いながら、背中をきかせて登っていった。コールがあって私。1歩目で滑ったので、不安になったが、アドバイスに従って、中に入り込まないよう気を付けながら、途中で体を突っ張って休みながら登る。チムニーを抜けてすぐ先にビレイポイント。

3ピッチ目フェース。易しいらしいので、ここだけ先に行かせてもらう。ピンを探しながら、ゆっくり登る。右上して、このまま行っていいか迷っていたら、左だと思ふ、と下から声がかかる。軌道修正したら、ハーケンがあった。以後、ピンが見つかるかどうか注意怠りなく、まっすぐ登る。濡れているところを避けるのだけが、難しかった。途中、懸垂して下りてくる人たちに会った。目の前にあるビレイ点は懸垂に使っているから、そのすぐ先を使って、とのこと。ああ、もうすぐなんだな、とほっとする。ビレイポイントで、すぐに水野さんが上がってきて、先ほどの懸垂してきた2人が4時に出ていちばんに登ったこと、朝の岩場はびしょぬれだったこと、を知らされた。

次は草付き。ここも先に行くようおすすめいただいたが、もうスリルは十分だったので、遠慮した。水野さんが藪の中に消えて待っているとコールが聞こえて、後を追うとちゃんと踏まれた道になっていた。

5ピッチ目。結構、立っている。水野さんリード(以下同様)。ひっくり返してロープをもらったがどうも出せそうにない。少し上がったところで、セルフビレイをとってもらい、ほどきにかかる。準備が出来たと目の前の水野さんに言って、登ってもらう。左にまわってすぐに見えなくなった。ロープは順調に流れていくが、だんだん残り少なくなっていく。あと5m、あと2mと叫ぶが声が届いたのかどうか。いっぱい、と叫んだが引つ張られたまま。どうしようもないので、しばらく待って登り始める。周囲はかなりガスがかかり、多少、乾きかかっていた岩が湿ってきた。手も足も豊富に



私はロープをほどいています

あるのに、乗り込むのに度胸がいった。お助け紐など躊躇なくつかんで登る。馬の背リッジ手前に到着。声は全然届いていなかったらしい。

6ピッチ目。水野さん、凸角の右側をちょっと登って途中で左に乗り移る。あまりよくなかったらしく、おねーちゃんだいじょぶかな、と言いながら振り返り、ここの手が利いている、と仕種で示して、登っていった。続いて同様に登ったが、乗り越すところでやはり緊張。あとは、そろそろ登る。安定したところで、写真など撮ってみる。

7ピッチ目。核心部の1ピッチ手前までたどり着いた。1つ先を、例の5人パーティが連なっている。核心ピッチの手前がちょっと平坦な場所で、ここに2人待ち。3人が登っていた。聞けば、2人はここで待っていて、3人が降りてきたところで合流して、降りるらしい。先行する水野さんは、ここでピッチを切る、と思っていたが、この先行者の勧めにより、そのまま核心部に向けて続けて登って行ってしまった。ガスはかなり濃くなり、登っている姿がぼんやりとしてくる。ビレイ点とかなり離れているのを不安に思いながら、じっと目を凝らして待っていた。

登りきってコールがかかる。安堵して、登りにかかる。ほどなくテラスにたどり着き、休憩していた5人組の脇をさらに登りにかかる。水が流れていて沢のよう。緩い登り出し、どこもつかめず。肘を使って体を持ち上げ、垂直部に来てホールドを捜す。ちゃんと濡れていると



濃霧の彼方に水野さん

逆に足が利くから、と水野さんは言うが、まったく信用できない。あらゆるインチキをして、ロープにぶらさがって横移動までして、じりじり体を上げる。最後は当然、ヌンチャクつかんで、ガバの位置を教えもらい、上に抜けた。あぁしんど。最後のヌンチャクは回収できずに終了。もうお腹いっぱいなので、ここで終わりにする。

ロープを畳んで、ちょっとひと息。13時半を過ぎていた。

テラスにたまっていた人が降り出すのを追いかけるようにして、懸垂にかかる。先行者は、テラスから、馬の背を降りるときに、途中、ピンにロープをかけて降りていた。振られ止めか。真似して、ルート上に2か所ばかりかけてもらう。しかし、ロープはフィックスしたかのように張ってしまい、ブレーキが効きすぎてなかなか降りられず。最後にロープを外したときに、リッジから思い切り左側に振られた。するとまさにそこに懸垂支点があった。まっすぐ降りれば良かったらしい。

引き続き懸垂。目指すところに方向転換ができず、じたばたする。ガスはだんだん濃くなってきて、下を先に降りていく水野さんはすぐに見えなくなる。ロープを引っ張って巻くことの繰り返しで、腕がだるい。懸垂の途中で、腕を振ってみたりした。草つきまで降り立って、ここだけ私が先に降りた。ちょうどリードして登ってきたところだ。登ったルートを確認しながらチムニーの手前に降り立ちいったん切った。あと少し。

チムニーの入り口まで行った方が早いかも、ということで、そのまま降りてもらおうが、良い支点はなかったらしい。ロープ引き上げて目の前の支点にかけ、南稜テラスまでそのまま降りた。ここでデポした荷物を回収。17時近く、ゆっくりしてはいられない。遠くから、会のコールが響いたので、水野さんが返す。

一段下がったところから、長い長い懸垂。歩いてトラバースしたところの、ちょうど下あたりで、足で歩けるのだが、落ちれば間違いなく振られるだろう。帰路の核心はここだった。足もとより下にあるロープを引き上げながら、ほとんどロープに荷重できない。というか、荷物になった。中央稜の取り付けにきたときには、薄暗くなっていて、明るいうちにテールリッジを降りられるかどうか危ぶまれた。いったんロープをしまっけて、歩き始める。ガスが濃くなってきて、岩はすっかり濡れていた。登るときはラクに登れた岩も、不安が先行して進めなくなった。止まりがちに私に、水野さんが辛抱強く、手と足の置き場を指示してくれる。

あたりが闇に包まれた。月はなくガスは相変わらず濃い。下降は懸垂にするが、先を行く水野さんは、ヘッドランプがないので姿がまったく見えない。ロープの先を照らしているのだが、そこにいるのかいないのかかわからないので、時々ロープを触って張っているかどうか確かめる。やはり先に降りる水野さんにランプを渡すべきだったのか。

コールがあつて下りにかかる。ロープに沿って降りるように、注意しながら、水野さんの声を目掛けて降り立った。ここで、ヘッドランプをしてもらい、降りたところで私がランプを引き上げる方式に変更。水野さんが、ヘッドランプ引き上げ用にナイロンの小さな菓子袋を提供してくれた。

水野さんが降り始める。明かりがだんだん遠ざかる。ちゃんと部屋の片付けをしておくべきだった、とどうしようもないことを考える。明かりの行く先を見ると、大きく左右に動

いたり、遠ざかったと思うと近づいたり。長い逡巡のあと、「“とりあえず”降りてきて」と言うのを聞いたとき、ビバークだと察した。

小袋に入れられたライトは環付きのビナでロープに付けてある。引き上げるよう合図されたロープを引っ張る。ようやく手許に来て、懸垂のロープとフィックスロープと袋の口が絡んで開かず、ロープを切りたくなるほど苛立った。まったくこんなときに…。やっとならライトを頭につけて、ロープをほどき、引き上げたロープを下ろすまでの長いこと。たちまち下ったそこは、ちょうどフィックスロープが切れたところだった。

樹林はない。フィックスロープにツェルトをかけ、岩を背にしてザックを当て、ザイルは畳んで下に敷く。ビバーク自体は初めてで、水野さんの手順に倣って準備。何もかもが物珍しい。荷物の整理をしていると、遠くから人声がある。水野さんに「なんか人の声がしませんか?」と訊くと、「やめなさい、そーいうの」と即座に叱られる。どうも、場所柄を考えると、いけない話題だったらしい。あるだけの防寒具を着込んでツェルトの中に座り込んだのは、22時前だった。

寒さに時々目が覚める。ツェルトのなかはびっしょり濡れていた。ツェルトに触れる膝と、ツェルトから外に出てしまう足先が冷たい。震えを抑え、水野さんにはりついて暖をとった。

5月30日(日)

テールリッジ上部(05:00)---テールリッジ取付(06:00)---ノ倉沢出合(07:00)

鳥の声がして、時計を見たら4時過ぎていた。すでに明るいが曇り空でガスが出ている。朝食を摂ると、仕事開始とばかり、水野さんが動き始める。まだ寝ていたい、寒いだけなので、仕方なくロープをさばきにかかる。

リッジ上をそのまま降りればよいことを確認して、降り始めたのが5時ちょっと前。懸垂

のあと、いったんロープをしまっけて樹林のなかを歩く。思ったより下っていなかったのだ。雪渓に降り立つ手前で、再度、ロープを出して懸垂。ロープからは泥水が滴りおちた。下りたところで、ロープを引っ張るが、ひっかかっていっこうに下ろせない。隣のフィックスロープを使って登り返しか。水野さんに交代して、ロープを思い切り振ること数回で無事回収できた。

登山靴に履き替え、アイゼンを装着。6時をまわっていた。硬い雪渓にアイゼンを効かせてまっすぐ下る。岩場は昨日にも増して濡れているというのに、登ってくる人たちとすれ違った。どこへ行ってきたのか訊かれる。登ったのは南稜、というと不審がられるところを、水野さんが、ちょっと残業して朝帰り、と応えていた。感心して、今度、人に訊かれたら真似しようと思っていたが、そんな機会はなかった。

もう到着は間近。雪渓の切れた舗装路で傘をささずとこちを見ている人がいる。あれは、小堀さんじゃない?と言い合うが、まったく動かない。近づいて、やっぱり小堀さんだ、とわかったので直進したら、雪渓から道路に下りられず。迂回して、道路に降り立った。

先を歩く水野さんが振り返って手を差し出したところで、いまが握手をするべき終了点だと気づいた。握手を返しても、なんと行って感謝を伝えるべきかわからなかった。迎えてくれた小堀さんの先に、いつもと違う市瀬さんと初鹿さんの顔が見えると、さすがに申し訳なく思う。

テントで朝ごはんをいただく。昨夜、小堀さんと初鹿さんが、雪渓を私たち2人を探しに登ってきて、呼んでくれたことがわかった。あの子の声は幻聴ではなかったのか。返事をしなかった私たちって…。朝食のおでんは、特にはんぺんをふるまわれた。私の好物だから、お供えにしてくれるつもりだったとか。

やっぱ谷川。 南稜でも残業朝帰り。

水野 奈保美

5月29・30日
南稜：水野・平
中央稜：小堀・初鹿・市瀬

アルパイン復活第一弾。最後に行ったのはいつかなと昔のデータにアクセスしてみてもびっくり2003年10月。あらあら。

金曜夜江梨子号で出。朝小堀さんと合流。金曜夜のウエザーニュースピンポイント予報では、9時まで晴れマークで、あとはずっと曇りマークだった。これなら問題ないでしょう。と思っていたのだが・・・

雪はたっぷりついていて、冬の一ノ倉の景観プラス新緑。岩は秋みたいだけど。ヘンチ取り付きまで一緒に行ってみるとかなり染み出して滝状だ。南稜もぎつと見て10人ほど取りつこうとしていたんで、みんなで中央稜？つーのも楽しいも・・・などと考察していると、南稜テラス付近にいた5人が「南稜行かれるんでしたら先にどうそ、トラブルがあって私たち行かないんで」と声をかけてきた。あらそう。じゃあお先に。そして、3人は中央稜へ。

南稜テラスまでのアプローチに新しい血がついていた。5人のうち1人が手の甲を切ってしまったそうだが、応急処置も済んでいて手伝うまでもない様子だったので、お気をつけてどうぞ、と言い残してテラスへ。こうしてなんだかんだと出だしも遅かったのだ。

登りはじめると、ところどころ湿気ってい

たり濡れているんで、ちょっと感じ悪い。チムニーを超えて、やさしそうなのでリードを代わってあげたけど、ちょっと怖かったかな？よく登った平GJ。

草付きをあるいて、カンテを超えて回り込んで馬の背、つうところで先行5人パーティーに追いついた。快適な馬の背のはずなんだが、湿気っていて「こんなとこだったか？」先行がテラスの支点に2人溜まっているので、直前の支点で切って平を上げ、とりあえずテラスに上がる。

見上げた核心ピッチはいやあまいったびしょ濡れ。先行のフォロアー2人が登っている。まずはテラスでピッチを切ろうとしたら、「このまま行っちゃった方がいいよ、オレたちここから降りちゃうから」「あ、そうすか」てなかんじで、ビレー点もいっぱいだし、継続して登る羽目に。この人たち、核心ピッチは若いモンにやらせて、トップロープで遊ぼうって魂胆らしく「女2人で谷川なんてかっこいいですねえ、ほら、あなたとおんなじザックじゃない」などとのんきなもんだ。こっちは登りはじめちゃったから上まで行かなきゃ帰れないじゃん。まあ、濡れてるとはいえ4級くらいでしょ？核心もフリーで越え、安心して出した手の下にハーケンがあった(相変わらず詰めが

甘い)。平もいろいろ工夫して登って来た。お疲れ。

先行5人は懸垂を初めている。あたりはすっかりガスって雨になるかも心配がただよ。13:30位だったかな。少し食べ物を口にけれ、私たちも懸垂を始めた。

で、このあとはずっと懸垂なんだが、南稜テラスから中央稜取り付きにかけてのトラバースが特に核心だったんだよね。馬の背あたりの懸垂もちょっと失敗しちゃって時間かけちゃったのもあって、3-40m離れるとすっきり見えないくらいの濃霧で。でも普通に歩いて降りられるとこだし、とにかく(わかるラインを)バンバン降りるとしか思ってたんで、平には怖い思いをさせたね(m謝m)。ここは「歩いて(足で)」降りるんだよということ、ちゃんと説明できなかつたし、自分にできるからといってみんなができるわけでもないことを、このあとも思い知ることになるのよね。うーん、難しい。

で、このあたりで16時くらい。急がないとまずいんだが、急に急げないのが世の常。中央稜の取り付きで17時20分。これは本気で下らないと明るいうちにテールリッジ降りられない。しかもヘッドランプを車に忘れてきてしまったし。とスイッチオン(遅いわ)。

結局、テールリッジのFIXロープ沿いに懸垂をはじめて2回目で手元が見えなくなった。3回目で、「私が平のライトを使って降り、工作が終わったらライトを上げて、平降りる」システムに変える。こんなシステムでも(電池の限り)時間をかければ下まで行けるはず、だった。

ところがFIXがなくなって目印を失ってみると、ライトをつけてもかえって濃霧のせい

でまわりが全く見えない。うーん。なんてくそいまいましい霧(英訳:F●●k'n Fog)だ。それでも見当をつけて強引に降りてみる。朝登ってきたばかりなのに全く見当がつかなくなる。あたしの本能がそれ以上降りるなって言うので、FIXがなくなるところまで登り返して、とりあえず平に降りてきてもらう。ああ、平がツエルトを持ってますように！

平も降りてきながら「もうどこかいいところを探してビバークしましょう・・・」

果たして、平はツエルトを持っていたのだ。平GJ！ロープを使ってうまいことツエルトも吊るせたし、ちょっと我慢して明るくなれば絶対帰れるからね。(ヨセミテでさんざん壁中ビバークやっというてよかった)※このとき聞こえた山の呼び声がまさか雪渓を上がってきた初鹿びろやすの声だったとは、まったく想像がつかなかった。時間切れでビバークしてるんだらうなって思ってると思ってたし。

それなりに寒くて長かった夜も白み、期待を込めて外を見ると「なんだよ、ぜんぜん霧晴れてないじゃん」まあ暗いよりマシ。しかもまだかなり上部だった。気をとりなおして下る。

出合いでは小堀さんが待っていてくれて、すごく心配をかけていたことを知った。そうとは知らず反省の色もなく、本当、すみませんでした。でも、あの濃い霧で日が暮れてはヘッドランプがあってもなくても絶対無理。ナイス判断だと思ったんだけど・・・。要は、のんびり登ってでもいいけど、締めるところはしめないとダメなのね。私にとってはとっても勉強になった、ある意味非常にいいクライミングだった。

リーダー部

概要

1泊2日の予定で南稜(水野・平)、変形チムニー(濡れていたのが変更)→中央稜(小堀・初鹿・市瀬)パーティで入山。

中央稜登攀後、南稜を下降中の水野パーティを確認(コールする)。われわれは16時に中央稜取付。この時は南稜組は裏側に回っているらしく、視認できず。出合17時36分。南稜テラスからの下降も2、3回懸垂下降するような感じなので、時間はかかるだろうと思う。そうこうするうちに暗くなり、だんだんとガスが濃くなっていく。ガスが濃いので無理して下降しないかと思う(明日予備日があるため)。22時くらいまで待った後、小堀、初鹿はテールリッジ末端まで見に行きコールするが反応なし。ガスが濃いのでたぶんビバークだろうと考えて、出合に戻る。

念のため留守宅に電話することにしておこうということになり、市瀬が車で携帯が通じるところまで行き、大坪に電話するがつかないため、浅井に電話する。二人が現時点で降りてきていないこと、おそらく、明日の朝降りてくると思うので、まだ他の人には知らせないで欲しいこと、明日の朝また連絡を入れることを伝え、電話を切る。その後浅井の判断で、岡宅に連絡を入れたとのこと。

その後出合に戻り0時過ぎ就寝。

翌日、7時頃、水野、平が無事下山。暗くなりガスが濃かった為、ビバークしたとのこと。(水野、平山行報告を参照のこと。)

下山遅れの理由

1. 岩がしめっていた為、全般的に時間がかかった。
2. 平の懸垂が予想よりも時間がかかった。
3. 水野が平と組むのが初めてで、クライミングの実力を良く把握していなかった。

ビバークの理由

1. 水野が、当日ヘッドを持っていなかったため、また、濃霧でこれ以上行動するのは危険と判断したため。
2. 平が、ツェルトを持っていたため。

留守宅への電話の可否

2日にわたってクライミングが計画されている場合、留守宅への連絡の必要があるかどうか。

浅井 邦夫

日程:2010年6月10日

山域:尾瀬(鳩待峠～山の鼻)

メンバー:浅井ほか6名



今年は、天候不順のためミズバショウを見るタイミングが難しかった。例年は家族での山行だが、今年は地元の仲間と話が盛り上がり行くこととなった。

コースは、これも定番の鳩待峠と山の鼻を往復するコース。総勢7人、私よりみんな年寄りだ。でも、農業をしていたり、ゴルフで鍛えていたりで結構元気に歩いてもらえた。

それでミズバショウだが、私達が行く数日前に遅霜があり、更に2日前に雹(ヒョウ)が降ったとのことで白が茶色混じりになっており少し残念でした。

昼には予定通り鳩待峠に戻り、山菜と地酒を買いこんで皆に満足してもらえた。ツアーリーダーの私は、少し気を使ったので疲れました。ただ、車を止めた駐車場で本州では初めてとなる、アカショウビンの「ヒョロロー」と云う声が聞けたのが嬉しかった。



1P目終了点より2P目を見上げる

山域:八ヶ岳・稲子岳南壁
 日程:2010年7月3日~4日
 1/25000地図:蓼科・松原湖
 メンバー:初鹿、市瀬、平

市瀬 江利子

今回のルートは平ちゃん起案。はっちゃんが行ったことない簡単なマイナールートを見つけたとはりきっていただが、はっちゃんが昔行ったことがあるというので、ちょっとがっかりしていた。さて、ここはネットで調べてもあまり出てこない。取り付きを見つけるのがちょっと難しいようだ。ルート図もないまま、とりあえず、行ってみることにする。

2010/07/03

稲子湯(9:00頃)--しらびそ小屋(10:30-11:00)
 --南壁左カンテ取り付き(12:30)--終了点(16:15)--しらびそ小屋(17:30頃)

みどり池入り口のゲート前に車を置き、歩き始める。八ヶ岳東面の優しい感じの風景だ。軌道跡のある小道を歩いて行き、若干急な登りを越えるとすぐにしらびそ小屋だ。この時期テントを張っているパーティは無く、受付後、すぐにテントを張って出発。天気は今日も曇っていて怪しい感じだが、予報では夜まではもつらしいので、遅くなってもよいから、今

日中に登ってしまおうということになっていた。

取り付きは中山峠に向かう登山道を歩いていき、途中から南壁のほうへ向かうらしい。以前はっちゃんが行った時は、黒百合ヒュッテに泊まって、上から取り付きに行ったとのこと。暫く行くと、登山道が急になってきたので、ちょっと行き過ぎたかもと戻り、樹林帯が薄くなったところで、中に入って行く。なんとなく踏み跡になっているような道に導かれて歩いているうちに、赤テープ発見。

そのまま赤テープを辿って行くと、崩壊跡があり、その辺りでテープを見失ってしまう。もしかして逆に辿ってしまったのかもと思い、元に戻って赤テープを探して行くと、崩壊跡の手前の斜面に続いている赤テープ発見。結構きちんと付いているが、思っていたよりも傾斜は急で、取り付きまでは長かった。

岩壁の基部らしいところまできて、そこを

右に回りこむように踏み後を追って行くと、右にガレ場の斜面が見え、その辺りから草付き斜面を直上して、一つ上のテラスへ登る。そこを左へとトラバースして回り込むと、取り付きに辿り着いた。ピンがあり、灌木もあり、支点が取れる。なんか雲行きが怪しいが、雨具を着込んで、準備をする。誰がリードするか決めていなかったが、前にはっちゃんは登ったことがあるとのことなので、リードをやらせてもらうことに。

1P目(30m)市瀬リード

最初の5-6mのリッジ(フェース?)を右から登り左の凹角へと回り込むところが、バランスが妙に悪くて、ちょっと焦る。一か八かで左足に乗り込み、打ってあった、ハーケンに何とか支点を取る。ルート中、ここが一番焦ったかも?そこからはリッジ上をがしがし登っていく感じ。どんどん登って行くと、リングボルトがあり、ここから右方向へとリッジが続くので、ザイルの流れも悪くなりそうだし、いったんピッチを切る。

2P目(20m)市瀬リード

ここから右のリッジへと登って行くと、視界が開ける感じで、やはりがしがしと登って行ける。チムニー状凹角の手前テラスまで。

3P目(35m)市瀬リード

チムニー状凹角に入って登って行く。右側の壁伝いにハーケンが打ってある。手前右側の垂壁にはボルトラダーがあり、人工登攀用のようだ。徐々に傾斜が増すと、足を広げてつっぱり感じで上へ登って行き、上部で左の岩

へと乗り込む。ここのバランスがちょっと微妙。ここを回り込むと後はチムニーの上に出る。そこからもう少しロープを伸ばしたところにあるリングボルトでピッチを切る。

4P目(45m?)市瀬リード

フェースを登って行くと、ガレ場のテラスへ出る。左に行くと垂壁がありまっすぐ行くと悪そうな凹角がある。よく見るとその凹角の抜け口に、新しいシュリングとヌンチャクがかかっている、一瞬そっちがルートかと惑わされる。が、どう見ても悪そうなので、垂壁のほう、右側を除き込むとハーケンを発見。やっぱりこっちだな、と納得して、垂壁右側のルンゼに移動しようとするが、こちら辺の岩はぼろぼろで、掴んだ岩がそのまま抜けて、ひやっとする。

この垂壁右側ルンゼの乗っ越しが、なんか悪くて思い切れない。ので、抜け口に一本ハーケンを打ってみるが、岩がもろくて利きが悪い。もう一回打ち直して上へ抜ける。ここからまたリッジ上で、かなり高度感が出てくる。そして、この辺りからザイルがものすごく重くなる。気をつけていたつもりだったが、流れが悪い。一枚岩を登り、核心の3m垂壁の前まで来たときに、どうにも片方のザイルが動かなくなる。

下で確保しているはっちゃんが見えたので、ザイルいっぱい?と聞くと、そうではないという。しかし、全く動かないので、ここで切ると伝えると、はっちゃんが、片方の確保を外して、少し登って来てくれた。特にどこかでひっかかっていた訳ではないが、ち

よつとした岩角等での摩擦で動かなくなっていたらしい。気を取り直して、垂壁へ。途中でハーケンが打ってあり、そこに古びたシュリングがかけてある。ここで支点を取って上に抜ける。探すとホールドはあるので、思い切って抜けることができた。この上で、ぎりぎりピッチを切る。ここには真新しいピカピカのリングボルトが2本、抜けてしまったのか、岩の下に並べられていた・・・

5P目(15m?)初鹿・平リード

最後のピナクル。登ってきたはっちゃんと、平ちゃんがそのままリード。クラックに沿って登っていくと終了点に辿り着いた。

終了点の近くにはコマクサが咲いていて綺麗だ。ここからは、登山道らしき道を通って行くと、トラバース気味に近道を通り、直接、しらびそ小屋から中山峠への登山道途中に辿り着いた。天気もなんとかもってくれた。ルートはちょっとぼろぼろだったけど、私的には楽しいルートだった。後はテントに戻って飲むだけ、そして、明日はゆっくり下山するだけ。



終了点にて

平 真里

日程:2010年7月3日~4日

山域:八ヶ岳

メンバー:初鹿、市瀬、平

7月3日(土)雲りのち雨

稲子湯登山口(9:00)--しらびそ小屋(11:00)--南壁左カンテ(12:30)--

終了点(16:00)--しらびそ小屋(17:50)

前日夜発。近くのスキー場に車を止めて仮眠。朝、稲子湯の先の登山口まで移動して出発。一般登山道なのに誰もいないのは、天気予報のせい。途中、昔使ったであろうトロッコの枕木があった。おかげで道幅は広く、歩きやすい。2時間ほどで、しらびそ小屋に到着。受付を済ませ、誰もいないテント場にテント設営。稲子岳南壁に向けて出発の準備をした。

テント場は小屋の前、みどり池から離れている。11時くらいに出発。池の向こうに、岩壁が見える。中山峠に行く登山道を歩く。どこかで登山道からそれるはずなのだが、資料の記述はどれも判然としないので、時間と周囲の様子であたりをつけて、右に入る。藪というほどの藪の濃さはない。なんとなく導かれてゆくと赤テープがあったので辿る。壁に向かってずいぶん右の方に入ってゆくので、方向が外れてゆくようだ。逆に辿ってる？もときた道を引き返すと、崩れた岩の向こうに赤テープを発見。壁に向かって左方向だった。

急な崩れた道を登る。あまりにも急なので、中山峠に出してしまうのではないかと心配になるくらい。樹林が切れて、崩壊したところをトラバースすると紛れもない取り付きだった。まわりは広葉樹になる。木でセルフビレイをとった。

岩を見上げるが、ルートを辿る自信はやはり出ない。トップは当然、市瀬さんに。以後、セカンド初鹿さん、最後が私。1ピッチ目。出だしにハーケンが連打してある。易しそうに見えるが意外に手も足もなく、先行の2人は、やや右上して左に戻る。私は、フォローの心安さで、まっすぐ上に登ってみた。その先は、大きな岩に手をかけて簡単に登れる。

2ピッチ目はオープンブックといわれるところ。事前に写真で見っていた。凹角の中央でも側面でも登れる。初鹿さんと私、それぞれ別のルートを辿って遊ぶ。登り終わると眼下に良い眺め、のほろほろ濃いガス。浮石多し。

劔稜会ルート

市瀬 江利子

日程:2010年7月28日~8月1日

山域:北ア・劔岳VI峰

1/25000地図:劔岳・十字峽

メンバー:初鹿、水野、市瀬、平



行きたかったチンネ左稜線。残雪期に行こうと2回ほど目論んだが、どちらも状況は厳しかった。その時期にクライミングシューズで登れるような条件は、かなり稀であると言う結論になり、やはり分相応に夏のチンネに行こうと、GWに行った小窓尾根からの帰りに決めた。行くなら今年の夏トライしたい。

そして、7月末に行くことに決定。必ず登れるように予備日を含めて5日間で行くことにする。初日は劔沢まで、二日目に三の窓まで行って、三日目にチンネ、予備日として四日目は劔尾根の上半部を計画した。日程的にも無理せず、しかも贅沢に予備日も取った。が、今年の夏は本当に天気恵まれず、初日に劔沢に入ってから連日の雨。止んだかなと思うと、ぎゅーっと降り出す日が二日目、三日目と続き、テントの中で、午後からは宴会の毎日。水野さんが運び上げたタコスなどを食べながら、四日目となる。チンネを諦め、せめて、VI峰のどこか一本登りたいと話していたが、四日目の朝もまだ雨が降っている。が、予報では午後から晴れるという。テントの中で期待しつつ待

つ中、9時ごろようやく雨が上がり、急ぎ準備をして出発する。

2010/07/31

劔沢小屋(9:00頃)--長次郎谷出合(10:00-10:15)--VI峰取り付き(12:30-13:30)--終了点(16:00-16:30)--劔沢小屋(24:00)

長次郎谷までは雪渓を下ること1時間。私は12本歯のアイゼンを持ってきたがバイルは持ってきていない。他のメンバーは10本歯や6本歯だが、バイルを持ってきている。熊の岩までは急な雪渓をひたすら登っていく。

そして、ここから上はガレガレの急な斜面を登っていく。はっちゃんが劔稜会ルートに行ったことがあるため、私とはっちゃんはAフェースの魚津高ルートに行くつもりで取り付きまで行くと、岩は濡れていて、おまけに事前にあまり調べていないため、取り付きも判然としない。そこで、水野さん、平ちゃんの劔稜会ルートに変更。後を追う。取り付きで二人に合流。取り付きは雪渓に囲まれていた。どうやら今年は雪が多いようだ。

3ピッチ目が私にとっての核心だった。右側の垂壁を少し上がり、そこから左壁に移るのが怖い。右の垂壁には、人工のためか上までリングがある。初鹿さんは、体を突っ張って登ってゆく。私は、右壁から登って、左へ届きそうなところを探し、ぶら下がり気味に無理矢理乗り移る。かなりぎりぎり。

4ピッチ目がこのルート上の核心とか。広いテラスでビレイ。トップをゆく市瀬さんの姿はすぐに見えなくなる。上部のカンテ状の壁の左壁にシュリングがなびいているの見えるので、あのあたりに出てくるのだろう。ずいぶん先だ。途中でザイルが動かなくなる。姿は見えないが声は届く。ザイルに引かれて進めないが、ピッチを切るには安定していないとか。雨はいまにも降り出しそうで、時間もない。初鹿さんが途中まで上がるとザイルが流れるようになった。安定した場所のようで、私もそこまで上がる。先に行く市瀬さんがハーケンを打つ音が聞こえた。

合図で初鹿さん、私の順に登りはじめる。ちょっと広い場所から凹角状の側面を登るとすぐにハーケンがあった。先行の初鹿さんが、そのハーケンを抜くように私に指示して登ってゆく。たどり着いてハンマーを振るうがびくともしない。片足は反対の壁に突っ張って安定した姿勢をつくり、力を込めて何度も叩く。さすが市瀬さんの力だ。微妙に動き出したハーケンに希望を得、あとは力任せにがんがんやってようやく取れた。上では作業に時間のかかる私を2人がのんびり待っていたので、誇らしげにハーケンを渡したが、違うと言われ

がっくり。その隣り(初鹿さんが登るときのロープがかかっていた)を抜かなくてはならなかったらしい。でも、ふつうに考えれば、自分の登るロープがかかっている方を抜くと思うでしょう。登攀はもうほぼ終わり。終了点には、抜けた真新しいリングボルトが丁寧に2つ並べて置いてあった。

5ピッチ目は、無理して登らなくても巻けてしまうが、わずかな距離なので登る。ここだけ、初鹿さんと私が先に行った。下の市瀬さんはすぐそばに見えている。あつという間に終了。

とりあえず雨に降られなかったことを感謝し、登攀具をしまうと、コマクサの咲く斜面を稜線目指して歩く。山頂はパスして下りにかかる。踏み跡に導かれてゆくと、地形図で予想していたよりも近道をしたらしく、1時間強程度でしらびそ小屋に戻ることができた。

翌日は下山するだけで良いので、お酒も飲んで夕餉。早くも雨がぱらつき、テントの中に。

7月4日(日)曇り時々雨

やはり人の少ない登山道を下山。2時間はかからず登山口着。滞りなく帰途についた。

1P目(35m)初鹿・平リード

スラブを左上する。ここは足も手もあり、気持ち良く登れる。

2P目(40m)市瀬・水野リード

凹角から右のリッジ上へ抜ける。浮石が多く気を使う。

3P目(40m) 初鹿・水野リード

急なフェースを左のリッジに向かって左上。ところどころ濡れているので悪い。

4P目(25m)市瀬・水野リード

かなり高度感のあるリッジだが、探すと要所にハーケンが打ってある。眼下の雪渓を見ながら気持ちよく登れる。

5P目(20m)初鹿・水野リード

Cフェースの頭までリッジ上を進む。

剣稜会ルートはとても楽しく登れる素晴らしいルートだった。が、しかし、ここからが、今回の核心だった。暗くなる前に長次郎雪渓へ出ようと、急ぎ踏み跡を追って下っていく。

三の窓側よりに付いた踏み跡を、どんどん降りていくと、立派な懸垂点が出てきた。50mの懸垂だ。はっちゃんがまず降りてゆき、どう？と聞くと、たぶん大丈夫との返事で続いて私が降りる。下につくと、ルンゼを挟んで5~6m程トラバースした場所にはっちゃんがいて、リッジを回りこんだところに懸垂支点があり、そこから更に懸垂下降をするみたいだという。しかし、ルートの下降に懸垂があるとは、どこにも書いていなかった。しかも2回も懸垂があるなんて、何かおかしい。

下には雪渓があり、どうやら5,6のコルの三の窓側らしい。そこから、コルまで登っていけるのかどうか上からでは判らないという。先ほどから大きな落石音が下から度々響いていて先行パーティがいることは分かっていた

が、ここからはコールしている声が聞こえる。とりあえず、はっちゃんのほうからそのパーティに呼びかけて、コルまで行けるのか聞いてみると、彼らも判らないとの返事。だが、コルに向かっているとのこと。だったら、大丈夫かなという結論で、平ちゃん、水野さんにも降りてきてもらう。

懸垂下降のロープを回収し、FIXを張り、はっちゃんのいる所まで行ってみると、びっくりするほどの険しい雪渓が見える。しかもコルに行くには、一度雪渓を下りて、次の雪渓を登らなくては行けないように見える。懸垂は40m程だが、先行パーティの男性2人が雪渓を降りるのに相当苦勞しているように見えるため、ここを降りては危険と判断し、登り返して、ルートを懸垂下降しようということになる。夕闇は迫ってきており、しかも雨まで降り出した。失敗したのは、懸垂のザイルを回収してしまったこと。また登り返さなくてはならない。

ここは水野さんが左のブッシュに支点を取りながら登って行く。さすが水野さん、アプローチシューズでどんどん登っていく。他はブルージックを取り、ごぼうで続く。ここから、他に踏み跡がないか、探しながら来た道に戻る。Cフェースの頭まで行くつもりだったが、途中、三の窓側に踏み跡が入る箇所ちょっと上に、長次郎側に続く、踏み後らしき道を発見。

最後の賭けで、こちらに行ってみることにする。既に薄暗いため、ルートをとるところ、失いそうになり、しかもガスが出てきて、下の様子が良く見えない。急な岩場で、下は見えないが、落ちたらただではすまない箇所を、慎重に降りていき、長次郎のほうへ少しトラバースしたところに懸垂支点を発見。

もう辺りは真っ暗だ。ヘッドランを照らし、ガスの切れ間から見る限り、その下は5,6のコ

ルで間違いないようだ。はっちゃんが先頭で降りていく。続いて私が降りていく。5,6のコルで間違いない。しかし、コルから下もまた雪渓があり、ガスで何も見えず、降りていけるかどうかわからない。

平ちゃん、水野さんを待たずに、先に様子を見に行く。雪渓の右側は壁沿いにガレが続いており、こちらを降りて行ってみる。ガレを崩さないように慎重に降りていく。えんえんと降りてゆき、まだかまだかと思っているうちに、ようやく右側に下から続く急な雪渓が現れ、その脇をどんどん降りていくとようやく長次郎雪渓に辿り着いた。

既に8時を回っている。しかし、ここまで来れば大丈夫。雨も上がり、ガスも薄くなってきた。他のメンバーがなかなか降りて来なかったのだが、実は懸垂の回収ができず、はっちゃんが途中まで登り返したらしい。ここからはアイゼンをつけ、くたくたになりながら、刃沢へ。寝静まったキャンプ場で、遅い遅い夕食を取り、乾杯をしたのでした。

やはり核心はアプローチと下山であることを、今回も思い知らされてしまった。平ちゃんに言われて、廣川健太郎のオールラウンドクライミングのルート情報を読んでみると、彼も以前この下山ルートに迷い込み苦勞した経緯が書いてあり、前のパーティもそちらに降りていることから、ここは分りにくいことがわかってちょっとほっとした。アイゼンも、パイも不完全な状態で、あそこを懸垂しなくて良かったと思う。

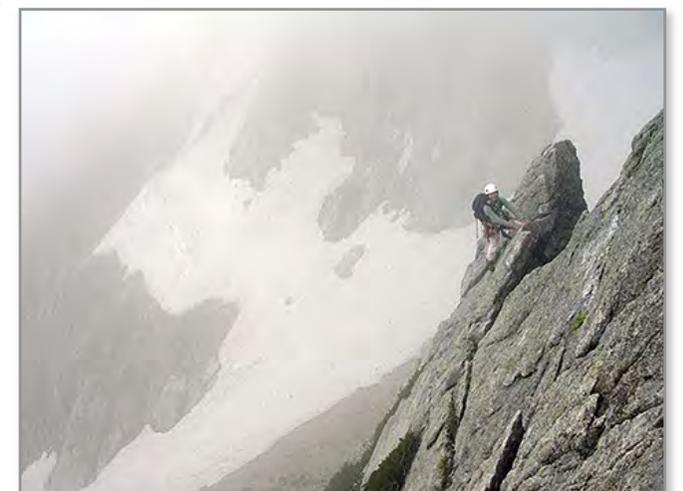
今回、とにかく一本登れて良かったが、この一本が充実過ぎるほど充実してしまった。チンネはまとまった休みが取れる時まで、おあずけです。



タコスを作る人たち



1P目を登る水野さん



4P目。高度感のあるリッジ

劔岳 VI 峰 C フェース 剣稜会ルート

平 真里

日程:2010年7月28日~8月1日
 山域:北ア・劔岳
 メンバー:初鹿、水野、市瀬、平

7月28日(水)晴れ時々曇り

前日夜発。扇沢まで行き仮眠、ではなくそこそこ眠った。トロリーバスの始発が8時半だというからゆっくりしていたが、実際はもっと早かったらしい。ギアの整理などもして乗場に向う。9時を過ぎていただろうか。きょうは室堂から劔沢まで向うだけ。

バスからケーブル、ロープウェイからバスと乗り継ぐ。乗っている間はラクだがその度に荷を移動させるのが面倒。室堂に到着し、観光客に混じってそばなど食べる。水を補給して出発。11時くらい。

まずは雷鳥沢のテント場まで観光客の間をぬって下り。1時間もかからない。それから雷鳥坂の登りにかかる。ところどころ雪渓あり。急な坂を休み休み登って、2時間弱、劔御前小舎に着く。ひと休みしてトラバース気味に進むと、視界が開けて下にテント場が見えた。テント目指して下るのみ、ほどなく着いた。

2年ほど前に来たとき、対岸にあった小屋はすでになく、管理所から劔岳に向って下った先に建っていた。テントの受けは管理所でできる。水は、消毒済みの管理場前と煮沸して使うテント場のものがある。

テントを張って外に出て劔岳を眺めながら夕飯。寒くなると、テントに入ってくつろいだ。

7月29日(木)雨

夜半から雨が降り始めるが、とりあえず起床。朝食を済ませて様子を伺うも風で雨が吹き付けている。諦めて寝直し。起きてテント内で喋りかつ飲みながらだらだら過ごす。

7月30日(金)雨

きょうも雨。小止みになるとそろそろ出発できるかと期待するが、途端に風雨。テント内に閉じこめられて1日が終わる。もう予備の日は使い切って諦めムード。劔沢から行けるルートの検討にかかる。



劔沢雪渓を下って

7月31日(土)雨のち曇

朝から雨。きょうも出られないのかと思っていたら、雨がやむ。なかなか信用できないが、きょうしか登る日がないので、ばたばたと出発の準備にかかる。9時過ぎにVI峰目指して出発。劔沢小屋を越えて、登山道を下り、雪渓に下り立った。

アイゼンを履いて雪渓歩き。平蔵谷を分け、長次郎谷の登りに入るとすぐに暑くなる。少し空が明るくなったりして希望がもてる。途中で、雪訓をしていたという学生の団体に出会った。

遠くCフェースを登っている人が見えた。Aフェースを登るという初鹿・市瀬隊と途中で別れ、アイゼンを外して水野さんの後ろにくっついてガレ場を少し上がる。間もなく取り



長次郎谷を登る

付きに到着。傾斜が緩くて行けそうなので、私から登ることになる。準備をしていると、Aフェースを止めて、Cフェースに合流するべく初鹿さんと市瀬さんがやってきた。取り付きに確信がもてなかったのと、岩がぬれているためとか。

1ピッチ目、私が登る。傾斜の緩い右から左へ行き、さらに上に上がるのだらうと思った

が、先のピンが見えないので立ち止まる。初鹿さんが下から、どこでも登れる、というので、そんなものかと思って、諦めて進む。それでも安定した場所に來たとたん、我慢できなくなってピッチを切った。凹角を抜けた先まで行ってピッチを切るのだけれど。ここで初鹿さんに追い抜かれる。構わず待って水野さんに上がってきてもらった。

1.5ピッチ目(とつけてみた)水野さんに先に登ってもらって続く。追いついたところが本来の2ピッチ目。先に市瀬さんがリードして登っていったので、そのままついてゆけば良いといわれ、心安くなり私が登る。岩は大きく、灌木もある。真似して木で支点をとる。ビレイ点についたら、簡単だったでしょ、と言われた。確かに。市瀬さんの脇でビレイして水野さんを待つ。3ピッチ目。水野さんリード。登っている間もずっと喋っている水野さん。先に市瀬さんが登り始めるが出だしで悩んでいた。しばらくしてコールがあったので、私も登り始める。やはり同じように出だしでつまづく。強引に登って、立ち気味の壁を左に上がる。よく見ていけば、ガバはたくさんある。ところどころぬれていたが、それで滑るほど細かい手や足はなかった。

4ピッチ目。やはりリードして先行する市瀬さんについて登る。高度感のあるリッジに乗り出そうとする手前でピッチを切り、水野さんを待つ。脇を市瀬さんに続いて初鹿さんが

追い越していった。4-5ピッチ目。水野さんリード。リッジに出てどういこうか左右を点検。ほかに方法がなかったのやっぱり右か、と手をかけてぶら下がり並行移動する。足はスマアだが、手は外れようがない。終わるとほつとして再び高度を稼ぐ。中途半端なところで切ったので、5ピッチの終了点まで。

着いたころは、16時をまわっていた。ガスが出てきて暗くなり日没に気がせく。明瞭な踏み跡をたどるが、方向転換して下りに入り、真新しい麻縄のかかった懸垂支点から下りたところで行き詰まった。先行者は同じルートを下りたようで、頻繁に落石の音がしている。とりあえず、ロープをフィックスしてもらってトラバースして進むが、その先もさらに懸垂で下りなければならない。雪溪のどのあたりに下りるか、覗き込んでみるが、V-VIのコルの三ノ窓側になってしまうようだった。あの雪溪を登り返して反対側に下りなければ帰れない。やはりおかしいので、引き返そうということになり、再びロープ伝いにトラバースをして、懸垂で下りたところまで戻る。ここで、水野さんが先頭で登り返し、後続はロープで引き上げてもらう。初鹿さんが登ってゆき、続いて私。ロープは2本。確保してもらってはいるのだが、先のルートより余程登れず。上からも下からもゴボウして登れとせかされた。

4人とも登り返したところで、ようやく道らしいところを歩けるようになる。霧雨です

に暗い。Cフェースの頭まで戻って、懸垂をして下りるはずであったが、分岐を見つけて進むとうまく下りられそうなので、行ってみるようになる。分岐は、先ほど下りてきたら後ろに向うような道で、気づかないのも道理と思われた。

すでに暗くなりヘッドランプをつける。ようやく雪溪に下りられそうな懸垂支点を発見。ただし下は良く見えていない。山状のところをトラバースしながら乗り越して下りたので、ロープが引っ掛かり下りられなくなる。先に下りた初鹿さんから、声が飛んでくる。焦ってロープを引っ張ったり、左右に動いたりしてようやく抜けた。明るければもっと短い懸垂ですんで、歩いて下りられるのかもしれない。市瀬さんは先に様子を見に行つたようだ。

ガレ場はまだまだ続く。岩が崩れやすく、すぐに落石をおこしそうだ。後ろ向きになったりして慎重に下る。疲れて足の置き場もだんだん適当になってくる。うんざりするころに、雪溪にたどり着いた。安心してアイゼンに履き替える。

岩の上よりも俄然歩きやすい。真っ暗ななか、長次郎谷を下ってゆく。刃沢雪溪に入ると今度は登り。後ろには月が照っていて明るい。久しぶりの晴天。もうそろそろかと思って、左側を何度もみるが来るときに下り立ったところはなかなか見つからない。何度かの思い違いがあり、雪溪から上がってアイゼンを外し、

疲弊した体に鞭打って登る。小屋を通りすぎて、テント場についたのは深夜0時だった。

テントで祝杯をあげるがあまりに疲れすぎていて早々と切り上げる。

8月1日(日)曇り時々晴れ

もう下山だけなので、遅めの起床。ゆっくりギアの整理などして朝食をとり帰途につく。しかし、帰りは雷鳥沢から室堂まで登り。14時過ぎのバスをめぐし、息をきらして階段を登ることになる。室堂までつけばあとはとにかく乗り物が運んでくれる。間に合った、と急ぎ荷物券を買って乗車した。扇沢からは、いつものようにお風呂、夕飯で、渋滞に巻き込まれ、それでも日付が変わらないうちには帰宅できた。

蛭。誰の足？



初鹿 裕康

日程:2010年8月13日~15日
山城:南ア・池口岳
メンバー:初鹿、市瀬、北原、平

- 8/13 曇 池口部落(10:07)--堰堤(11:22)--ゴルジュ手前 (14:59)
- 8/14 曇/雨 (7:03)--第1ゴルジュ(7:57)--第2ゴルジュ(8:40)--第3ゴルジュ(10:34)--第3ゴルジュ上(12:35)--二股(13:16)--二股(14:17)--二股(15:03)--B.P(15:26)
- 8/15 曇 (6:08)--ガレ場(8:16)--登山道(9:36)(10:36)--黒薙(12:21)--駐車場(14:21)--登山口(14:55)

当初、南アの信濃河内に行く予定であったが、どうやら台風の影響からか、水量が多そうな感じ。急遽、遠山川・池口沢に転進することにする。地形図は何とか手にいれられたが、肝心のトポがネットから拾ったものだけ。どーなることやら。

高速を飛ばして正月にも前泊したキャンプ場へ。ちょうど何か流星群が来ていたので2、3個流れ星を見てから就寝。

さてさて、翌日池口沢に早速突入するのだが、今日はゴルジュの手前で泊まるということでのんびりと行く予定が…。あゝ、やっぱり水量多い。ってことで最初の堰堤を越す階段が右岸にあったので、すでに沢を渡るところからが大変だった。こんなところで時間を食う。さらに途中からは左岸の踏み跡(トラロ

ープあり)を使って巻いていかないと、とてもじゃないけどたどりつかない水量だった。さらに蛭を発見してしまったので、危ないところで払い落している人1名。結局ゴルジュ手前まで行くのに4時間もかかってしまう。蛭退治をして、魚を1匹ゲットして就寝。明日はどうなる事やら…。

翌、天気はいま一つ。今年は街は猛暑らしいが山はどこ行っても、今一な天気ですなあ…。第1ゴルジュは、左巻きの懸垂とあるが、トロを泳いでなんとか突破。平ちゃんは滝壺苦手らしく、どぼんと落ちる。「大丈夫」と聞くと「苦しい」と死にそうな声、どうしようと思っていたら、足が立つ場所であった。第2ゴルジュは右岸から岩棚を這って突破した。こまでは順調。第3ゴルジュは滝壺突破と行きたいが荷物が重いので空荷で北さん突破。そのあ

くつろぎ過ぎでしょw



とERIKOがザックをビート版にして進むが、ちょっとした滝を荷物が上がらない。とりあえず人間だけ上がるが、荷物が滝壺をクルクルと回っている。そのうちなぜかザックからいろんなものが流れ出し(雨蓋のチャックが開いてしまったらしい)、下流に何か流れてきたと思ったら財布と携帯でした(@__@;)。

何とか持ち上げ次は私、ザック背負って行くつもりだったが却下されたので、別便で行く。最後にザックを回収。

平ちゃんを引っ張ろうと思うがザイルがないとのこと。だめだよ末端離しちゃ…。ザイルを投げなんとか引っ張り上げました。結局この滝壺には宝の山が…(金のラジオを落としましたと言いましょ)。ここで2時間もかかってしまう。もうお腹一杯です。

雨も舞い始める。二俣と思しき所に着くが、標高が低いんじゃないのとのこと。確かに地図で見る限り200m程低い(1180m)。でも良

いテン場なんだけどなあ。仕方ないので左の沢に入ってさらに行くのと二股??さらに登って二股。あれれんってことでやっぱさっきのところじゃん。地形図が違うのか??とりあえず土木工事をして寝るのであった。夜は雨。

最終日さてさて、ここはどこだってことで、先に進む。岩小屋沢かそこからさらに二股入ったのか…。とりあえず5時間もあれば稜線に抜けるんじゃない、なんてことで詰めていくと。滝が2、3ある。何とか巻きながら進んでいくと左が高い滝、右がガレとなる。ここから右の尾根に入ると明瞭な踏み跡。藪こぎもなく詰めていくとあっさり登山道に出てしまった。

登山道を下って行き、なぜか登山口で蛭の被害を2人確認し、風呂に入って、大渋滞を覚悟しながら帰京したら、普通の日曜日よりも空いていた。ラッキー。

山里 守広

日程:2010年8月12日～15日

山城:南ア・聖岳

メンバー:山里

13日 聖登山口(6:50)--聖平小屋(11:25)

14日 聖平小屋(7:10)--小聖岳(8:00)--前聖岳(9:10)--聖平小屋(11:15)--登山口(14:30)(林道)

8月12日

激しく降り続ける雨の中、9時50分発の静岡駅から畑薙第一ダム行きのバスに乗る。今日の行動は、畑薙第一ダムから5時間の行程で、横窪沢小屋まで登り、そこでテントを張る予定である。

バスの車窓から見える大井川の水量が激しく流れている状況に、明日から信濃俣河内の沢を狙う沢メンバーが心配になってくる。多分転進すると思うが…。畑薙第一ダムには13時20分に到着した。

雨は依然として降り続けている。初日から5時間も掛けて雨に打たれながら横窪沢まで登る行程に気が減入ってしまい中止とする。樫島には、マイカーで来る登山者も送迎バスを利用する為、樫島ロッジにはかなり遅れての到着となった。15時10分であった。

本日は雨という事で登山小屋に宿泊。明日は聖平小屋までの行程である。従って、今回の

予定であった茶臼岳と上河内岳は残念ではあるが、諦めるしかなかった。

8月13日

6時30分発の樫島ロッジの送迎バスで聖岳登山口まで乗せて貰う。

私の他に13人の登山者が一緒だった。登山口には6時40分に着き、殆どの人達は直ぐに登り始めた。私はのんびりと煙草に火を点け、色々考えるのであった。「今日も曇り空であまり天気は良くないなあ。沢メンバーはこのような天気はどう対処したのだろうか。久しぶりに山に来たので、体力がもつのだろうか？」まあつまりそんな事を考えていたのだ。プラス思考の発想が全くないのが実に寂しい。煙草を吸い終えると徐に出発する。

最初の登りは左ヘトラバースして、黙々と高度を稼いでいく。道幅も広く歩き易い。1時間も歩くと聖沢吊橋に出た。「聖沢…。」と自然に声が出る。何年か前に、初ちゃん、モトピー、

水野さんと一緒に聖沢を遡行した山行が蘇ってくる。そんな感傷にふけるのも束の間で、再び黙々と高度を上げていく。

休憩が造林小屋跡地の近くのみだったため、聖平小屋には予想外に早く着いてしまった。時計は11時30分を指していた。これから百間洞までその気になれば行けるのだが、今日は無理をしないで聖小屋でテントを張ることにした。

夕方の食事時間まで間があり過ぎるので、取り敢えずお花畑にある、上河内岳と聖岳の分岐に出てみた。天候は曇っていて辺りの山や稜線をガスが隠している。それでもガスの切れ間に上河内岳が見える瞬間があった。思わずピストンでもいいから、登ってみようかと思っ、地図を広げてコースタイムを確認すると、上河内岳に登るだけで2時間35分も要するため、断念するしかなかった。仕方がないので小屋でビールを購入してテントに入り、読書と決め込む。

その時、携帯から沢メンバーが池口岳周辺の沢に転進した事を知る。沢は水量が多いので、無事に楽しんで来てほしい。

8月14日

6時起床で7時10分に聖平小屋のテント場を後にする。今日は朝からかなりガスが濃いようである。ガスの中を休む事無く前に進む。眺望がきかないのは残念でならない。

前聖岳までひと息で到着した。9時10分である。小聖岳から強風とガスの濃度が強まり、

雨も横から降ってきた。前聖岳をピストンして戻る人達が「ザックを置いてピストンした方がいいよ」と私に声を掛けてくる。「ありがとう」と声を返す。その時、私は百間洞まで縦走すべきか悩みつつ登っていたのである。

ザックを背負って前聖岳の山頂から百間洞方面に目をやるが、ガスでよく見えない。結局、無理をしないで戻った方が良いと判断し、聖平小屋へと歩を向ける。ガスの中にうっすらとトリカブトが幻想的に映った。

聖平小屋に戻った頃から雨は尚いっそう強くなってきた。11時30分、聖平小屋を出発する。聖平小屋からは休む事無くひたすら樫島へ向けて歩いた。林道に出たのは、14時30分であった。

しばし林道を歩いていると、後ろから車が近付いてきて私の前で停まった。何とその車は樫島へ向かう送迎バスだったのだ。運転手が「樫島に行くんでしょ」と声を掛けてきたので、私は運転手の優しさに甘えてしまう。雨が降っていたので大いにたすかった。

8月15日

皮肉にも本日は実に天気が良いので、樫島の芝生の上でテントを乾かしたり、ビールを飲んでラジオから聞こえてくる甲子園の中継に耳を傾けたり、のんびりと過ごす。後は午後1時発のバスに乗るだけだ。

景色を見ながら！ 3年ぶりのトライアスロン

初鹿 裕康



【その1】はつかいち縦断みやじま国際
パワートライアスロン

泊まったホテルから厳島神社へ遊覧船が出るといので乗る。夜の厳島神社はライトアップされていた。満潮なので船に乗ったまま、海の中の大鳥居をくぐる。明日はここがスタートとなる(下見か)。

今年トライアスロンに出ると決めて、申し込んだのがこの大会。なんせ、厳島神社の大鳥居からスタートするなんて素敵でしょ。距離はミドルタイプ。まあそれだけで申し込んでしまったのだけれど、よく調べてみると結構大変なコースだった。

この日のためにBIKEとウエットスーツを新調してしまった(給料数カ月分?)。

とりあえずワンウェイのコース。パワーがづくだけに結構ハードなコース。BIKEはほぼ登りとか…。3つのスタート地点が全部違うのでレース用具の輸送とかに頭を使う。

当日朝、BIKEスタート地点にBIKEをセットして、RUNの道具を支給されたRUN袋に入れて預ける(RUNのスタート地点に運んでく

れる)。ここから選手はバスで、宮島行きフェリー乗り場へ移動して、フェリーで宮島へ。雨が降ってくる。

厳島神社の千畳敷の中はトライアスリートだらけ。ここで、今日の天気概況とコース説明。天気が悪いがなんとか、全種目で開催される。お祓いをしてもらって、レースに必要な荷物をSWIM袋に入れて預ける(SWIM袋はゴール地点に運んでくれる。メガネとかサンダル、着替えなど)。久しぶりの長いSWIMなので胃が痛い(昨日は酒も飲んでいないのに)。

世界遺産の厳島神社の海の中にある大鳥居を、泳いでくぐった所がスタート地点。なかなか



かこんなシチュエーションはないよ。号砲の合図と共にスタート、そんなに大したバトルはなかった。しかし、ゴーグルの中に海水が浸入すること数回、立ち泳ぎして直す。また、コースがよくわからないので結構大回りしてしまう。流れが結構あるらしい。対岸まで2.5kmのワンウェイコース。結構時間がかかってしまい1時間を超えてしまった。ショックだ。

対岸に渡り、55kmのBIKEとなる。新調したBIKEなので、手前勝手がわからない。最初スピードを出しすぎカーブで後輪が滑って曲がりきらず、車両規制で止まっている車の前に飛び出てしまった(怖)。最初数度の下りがあるが、どうも後輪の滑りが怖くスピードに乗れない。

途中からはハードトライアスロンという名前の如く、超ハードな登りが続く。最初の峠のてっぺんで238番だよ、とか言われる。真ん中あたりだったのでちょっとショック。まあ、

SWIMが響いたか。

残り5kmで最後の難関が待っていた。3km以上の登り。これがきつかった。何人が歩いてBIKEを押している選手がいたが、歩いていたら、時速4km以上のスピードは出せない。漕げるなら無理してでも漕がないと。最高に軽いギアでの座り漕ぎ、一個上げて立ち漕ぎを交えて何とか頂上だ。

最後の下りも、慎重に。ブラインドコーナーが多いので怖い。途中抜いて行った選手が倒れている。滑ったかな。最後の直線を気持ちよく下っていたらBIKEゴールだった。自分のRUN袋をもらって、BIKEシューズと入れ替える。ミドルのトライアスロンなので靴下も履く。トイレに行ってから最後のRUN20km。まあ、これも平らなのは最初の2km位。しばらくすると登りです。最初の5km28分。次が33分。ラスト5kmは下りが主体だったけど、きぼって25分で走れたので良しとしましょうか。雨の中のゴールでした。



ゴールからスタート地点に送迎バスが走っているが、高速使わないと90分もかかる。結構遠いねえ。帰りの新幹線の時間が結構早い時間で予約してしまったので、ここからが4種目目のレース??ゴールにある風呂は混んでいて順番待ちなので、レースのままの格好で一番の送迎バスに乗り込む。

BIKEはBIKEスタート地点まで戻しておいてくれるので、送迎バスでBIKEゴールまで行き、BIKEとウエットスーツを回収し、そのまま駅に向かうつもりだったが、BIKEがまだ回送されてきていなかった(泣)。何とかぎりぎり回送されてきたので、土砂降りの雨の中、宮島口の駅までBIKEで走り、駅前で輪行袋に収めて、広島駅の駅へと向かったのです。

2010/6/28

はつかいち縦断

みやじま国際パワートライアスロン

参加341人 完走301名

SWIM(2.5km)

1:04:14 / 242位

BIKE(55km)

2:51:20 / 175位

3:55:34 189位

RUN (20km)

1:53:21 120位

5:48:55 総合166位

男子46-55歳26/74

かろうじて参加者の真ん中より上でほっとした。年代別だと結構いい線いってるかな??SWIM練習しないとだめだね。

【その2】レイクハマナトライアスロン

これまた久しぶりのオリンピックディスタンスの大会。場所は浜名湖競艇場。

それにしても今年の夏は暑い。暑いのがト



ライアスロンとはいえ、水温30度でウエットスーツ着用義務がなくなるまで暑いのは、暑すぎです。しかしながらウエットスーツは浮力があるので着ていくことにする。周りの選手も着用している人が多い。だが、待っている間が暑すぎる。

浜名湖の水はしょっぱいが、水はぬるいというか熱い感じさえする。競艇場の中を2周。どうも最近スタート位置が悪いのかいまいち遠回りして泳いでいるような気がしてならない。水温が高いと疲れるんだよねえ。なんとか泳ぎ切るがやっぱり、30分を超えてしまう。お次はBIKE。5kmを8周。多少の登りはあるが短い。あとはほぼ平坦。ただただ暑いのだ。

エイドステーションがないので最後は手持ちの水がなくなってしまった。新幹線と並行して走るところがあるが、やっぱり新幹線は速かった(当たり前)。なんとかRUNへつなぐ。

RUNコースは日陰もあるが、でもやっぱり暑く、背中が陽に焼ける。草地のところもある

のでスピードが出しにくい。約3kmを3周。エイドで水を頭から掛けたりして生き返りながら何とか走る。

結構抜いた気がするがタイムは遅い。10km50分もかかってしまった。夏のスポーツとはいえ、久しぶりに暑くて死にそうなトライアスロンだった。ゴールは2時間50分。ベストに比べればはるかに遅かった(泣)。



2010/8/30

第16回レイクハマナ・トライアスロン

2010 in 新居

参加142人 完走139名

SWIM(1.5km)

33:55 72位

BIKE(40km)

1:24:35 45位

1:58:30 49位

RUN (10km)

51:33 19位

2:50:03 総合27位

結果を見てびっくり。以外といい結果で驚いた。RUNのトップでも10km41分かかっていた。年代別50代だったら年代別優勝だったのにな。でもまだ40代なんだよねえ(*^_^*)。

復活・なほみさんのいつまでたっても うまくなならないクライミング日記

水野 奈保美



今年もあわよくばヨセミテに、と思っていたのだが・・・7月にMacが壊れたのをきっかけに、負のスパイラルに突入。8月いっぱい家でじっとしてる羽目に・・・今まで通り力のかぎり遊んでられない。

←雷鳥沢からの登りのイメージ図

5月連休

with M 師匠

4/30 甲府幕岩 10c/d○とか

5/1 甲府幕岩 10a○、10b○、11a/b×

5/2 甲府幕岩 10a○、ジューンブライド 11b×、10d△とか。

5/3 小川山 2峰 かぶとむし 12a×、星と光 12a×とか。

5/4 小川山 2峰 コグレ大サーカス 10c○、DDT11a×とか。

5月第2週

5/8 (土) 広沢寺

平と。ピッチ切ったりする練習

5/9 (日) 末端壁

調和の幻想 5.9、ペガサス 10d、T&T10d

久々に「癒し系」ペガサス...ってどこが癒し系じゃ。2テンでトップアウト、第2登ならず。T&Tはトップロープ。

ペガサスのせいで全身筋肉痛だわ。次から毎回登ろう。

5月第3週

5/15 (土) 末端壁 with O山、U田、M田
調和 5.9○ ペガサス 10d○再登出来マスタ。よ

かったよかった。

5/16 (日) 同

調和 5.9○ アストロ 11a×1、TR○アストロ(やっと) いい感じ。登る気が出来次第大丈夫でしょう^^ちょっと自信回復気味。1日1回ペガサス登ろうキャンペーンはちょっと混んでいたのを取り付く機会逃したけど今後も継続予定。

5月第4週

5/22 (土) 甲府幕 with M川 F沢 K江
HIVE10a○ うp

シルキー 11b○ (4便)

(1)人のヌンを借りる。一撃するきまんまんだっただけけど出だし敗退。2クリップまで。

(2)同。3個目クリップ怖いのでやめた。このあとお兄ちゃんたちはRP。

(3)自力でヌンがけ。最後まで行ってみると登れそうな気配。

(4)思いのほか楽にRP。自分のヌンで登っていたら2回で登れたかも。

久々の1本お持ち帰り。やればできるじゃない〜結構上手に登れたと思うよ。工夫すれば力がいらぬ系は得意ね。今後はホールドを選べない系を練習しないとね。そして今日は知り合いがたくさんいて癒されました。

6月第1週

6/4 (金) 夜:カサゴ&M川、八王子 ABC 泊。2時近くまで飲んで

6/5 (土) 朝 5時30分にM師匠が出発(コーチャン号でどっか) 5時45分にO山号着、カサゴ&私乗り込む。M川号も出発。須玉ローソンでカサゴはM川号に移動し小川山、O山号は植樹祭Pへ。

・末端壁:なにげに混んでた。調和アップ TR T&T10d TR○だったやばい。
後、小川山で某宴会に参加し、共倒れ with O山。

6/6 (日) 朝 Hさちゃんと合流、1峰へ。数年前にバイシクルダイクをトライ中に乾き待ちで行ってみた1峰で、一目惚れした美しいムーランージュ 11cを触りに行く。宴会メンバーにムーランに行くっていったら評判悪い(除:K池 Gメラ)なんかムズそう。一見フレンドリーに見えたんだが、触って見たらうぎやムズかった。まあアタシがヘタクソなんですけど。人いないしロケーションも気持ちいい。今日はなんとかずるしてトップアウトしてみたけど、中間部が絶望的だなあ。×3 やっぱルートは「見た目」でshow!

6月第2週

6/12 (土) 末端 with O山、Hさちゃん

・順番待ちして調和でアップ○

・T&T10d 初リード×

混み混み末端。アタシの久々の本気トライは、「やった、イタダキ!」と油断した瞬間落ちのお家芸。登れちゃう気満々だったので、精神ダメージ強。後、各岩場から戻った3パーティ全9名於某宿泊サイトで宴会。殿方々寝落ち後「チーム大女(仮名)」で盛り上がる。

6/13 (日) 小川妹岩 with O山、Hさちゃん、F沢+U田、Y野

今シーズン初。こちらもなかなかの混雑ぶり。

・カサブランカでアップ○(癒されなかった)

・ジャック豆+パピヨン 2P目○

・ジャック豆(リードトライ)×

苦手なジャック豆、フォローで登ったら意外と簡単じゃん?オレ進歩した?に思えたので、リードしてみたが登れなかった。フォロー(トップロープ)と同じようにリードできればいい話なんだが・・・このへんを克服しないとなあ。第2登はいつ?【登れるはず】【いつまで言ってる?】

6月第3週

6/20 with O山 Hさちゃん

小川 1峰

ムーラン・ルージュ 11c ×4

(1) ヌンチャクがけ。

(2) ぐちゃぐちゃやってトップアウト (TR)

(3) おお、ムーブその1ができた!で終わり

(4) 復習のつもりで行ったがGDGD。

以上。もう指が嫌だと言ってます。いやあ、ぐっと来ますな。

6月第4週

なんだいなんだい^^天気悪。

6/26 (土) レイバック(他の人たちは湯川)→佐久アートウォール→某東屋

6/27 (日) 東屋→ナナーズ→一旦自宅にもどる→カモシカ→ニッピン(靴めぐり)

アタシらは避難してしまったが、土曜も日曜は登れた(人もいる)らしい。

この予報でやっぱり来ている人たち、みんなゴイスーだよ!

7月第1週

うげー BrokenMac。みんなとアルパインの予定だったがそれどころじゃねー

7月第2週

7/10 (土) 日帰り

まずは末端壁へ行ってみる。今までになく濡れていて、人も多かったので(全部うちわだったが)さっさと諦めて廻り目へ。こっちは乾きがよくて快適だった。レイバック→クレージージャム久々に登った。第2登できたのでよしとしましょう。ワイドハンドで登れたし。次からは出だし正対と、ワイドムーブの練習だね。

7月第3週、海の日3連休。

7/16 (金) 22時→塩川ダム
 7/17 (土) 塩川ダム→廻り目平
 瑞牆山がガスに覆われていたので小川。
 レイバック 2P 登って屋上にでる「天まで登れ 12a」にトップロープをかけ、出だして遊ぶ。
 7/18 (日) 廻り目：砦前衛 バンザイジャム
 ・バンザイジャム 10c×2
 初見でリードしてみたが、途中から無理。エイドアップ。後、謙虚にトップロープ。おいおい全然できねえんですけど？
 7/19 (月：祝) バンザイジャム続き。
 バンザイジャム続き。
 ・バンザイジャム 10c×2か3 どうせできないのでトップロープで練る。ようやくなんとかなるかも、まで。背のかい兄ちゃんたちは私のムーブを盗んで一撃したりムーブ解決していた。ちっ。

誰の呪い？雨ばっか劔

7/27 (火) 夜出→扇沢
 7/28 (水) 扇沢→室堂→劔沢
 7/29 (木) 沈
 7/30 (金) 沈
 7/31 (土) C フェース劔稜会 (ディッセント核心、帰幕 24 時)
 8/1 (日) 劔沢→室堂→扇沢→帰京
 5日もかけたのに C フェース 1 本。あぁなんてチンネは遠い。
 アルパイン歴は長いけど経験は浅いんで相変わらず



7/28 夕刻の劔沢。くつろぎすぎでしょ w その2

ずたいして使えないけど、思ったより歩けたし少しは役に立つところもあったでしょ？って感じで(うっすら) 首はつながったかな。懲りずにまた一緒に登ってね。

8月第4週

8月28日 (土)
 会員6名でつづら。こんな時期にフリークライマーなら絶対行かないところだが、「みんなで集まって登って大汗をかく→風呂→飲む with 将来の会員？」というのが目的。アプローチ小一時間往復で大汗をかき、さらにクライミングで大汗をかき、どんだけ飲んでも大丈夫！つつ錯覚で気持ちよく飲みただけ飲める、秋川の1時間 980 円の飲み放題の寿司屋は最高に幸せでした。家にもあんな蛇口が欲しい～

8月29日 (日)
 秋川からの帰り酔った勢いでO氏に電話してみた。在宅な上まだ起きていて、行けるなら迎えに来て頂けるとのことだったので、小川へ。

親指岩
 ・レイバック うP
 砦前衛壁
 ・バンザイジャム 10c うP2 (エイドダウン) ×
 ・はさみむし 10c トップロープ
 ワイドクラックって素敵。肩から血とかでちゃやし～うしやしやしやし～ (※みなさん是非一度経験してみてくださいな)



7/31 C フェースの帰り。写真 by 江利子？はっ？

No.	山行日	山域	ルート	参加者	区分
2757	5/8～10	奥多摩	西谷山～雲取山	初鹿・他	ハイク
2758	5/8	東丹沢	広沢寺	水野・平	岩トレ
2759	5/9	奥秩父	瑞牆山十一面末端壁	水野・他	フリー
2760	5/9	奥武蔵	日和田	平・他1	岩トレ
2761	5/14	上越	赤城山	岡	撮影山行
2762	5/15・16	上越	谷川岳・天神尾根往復	岡	撮影山行
2763	5/15・16	奥秩父	瑞牆山十一面末端壁	水野・他	フリー
2764	5/15	富士	富士山	初・山・市・小・平	山スキー
2765	5/22	山梨	甲府幕岩	水野・他	フリー
2766	5/22・23	北ア	唐松岳八方尾根	初鹿・市瀬・平	山スキー
2767	5/29	上越	谷川岳一ノ倉沢南稜/中央稜	水・平/小・初・市瀬	アルパイン
2768	5/30	上越	谷川岳マムシ岩	初鹿・他	岩トレ
2769	5/31	上越	谷川岳一ノ倉沢	初鹿・他	雪訓
2770	6/1	上越	谷川岳一ノ倉沢南稜	初鹿・他	アルパイン
2771	6/5	奥秩父	瑞牆山十一面末端壁	水野・他2	フリー
2772	6/5	那須	苦土川井戸沢	初鹿・市瀬	沢登り
2773	6/6	奥秩父	廻り目平	水野・他1	フリー
2774	6/5・6	御坂	三ツ峠	平・他	クリーンハイク
2775	6/9～7/2	ペルー	アンデス	岡・他	トレッキング
2776	6/10	上越	尾瀬	浅井・他6	ハイク
2777	6/13	奥多摩	越沢バットレス	小堀・初鹿・平	岩トレ
2778	6/12	奥秩父	瑞牆山	水野・他	フリー
2779	6/13	奥秩父	廻り目平	水野・他	フリー
2780	6/19	中央沿線	四方津御前山	初鹿・他	ハイク
2781	6/20	奥秩父	廻り目平	水野・他	フリー
2782	6/26	奥多摩	氷川屏風	小堀・山里・他1	岩トレ
2783	6/26	奥武蔵	日和田	平・他1	岩トレ
2784	7/3・4	八ヶ岳	稲子岳南壁左方カンテ	初鹿・市瀬・平	アルパイン
2785	7/10	箱根	湯坂道	小堀・初鹿	トレイルラン
2786	7/17～19	奥秩父	廻り目平	水野・他	フリー
2787	7/17～19	上越	川場谷	初・市・山・平	沢登り
2788	7/19・20	八ヶ岳	横岳	岡	撮影山行
2789	7/21～23	上越	尾瀬	大坪・他多数	ハイク
2790	7/22・23	奥秩父	瑞牆山	初鹿・他	縦走
2791	7/25	奥多摩	つづら岩	小・初・市・平	岩トレ
2792	7/26～29	上越	尾瀬	大坪・他8名	ハイク
2793	7/28～8/1	北ア	劔岳六峰 C フェース劔稜会	初・水・市・平	アルパイン
2794	7/31～8/1	南ア	塩見岳	北原・他1	縦走
2795	8/7・8	北ア	霞沢岳	平・他1	縦走
2796	8/9・10	奥多摩	今熊山	初鹿・他2	ハイク
2797	8/13～15	南ア	聖岳	山里	縦走
2798	8/13～15	南ア	遠山川池口沢	初・市・北・平	沢登り
2799	8/22	奥多摩	越沢バットレス	小堀・平	岩トレ
2800	8/22～25	東北	吾妻連峰	初鹿・他	縦走
2801	8/28	奥多摩	つづら岩	小・水・山・市・平・他1	岩トレ
2802	8/29	奥秩父	廻り目平周辺	水野・他1	フリー



久しぶりにトライアスロン復帰。
ロングのマラソンにシフトしていても良かったけど、トライアスロン全く止めてしまうのも、何かと思い再開。なかなか緊張した。自分の弱い心と戦うのは面白い。逃げやずるは自分が一番よく知っているからね。

結果を見てもっと練習しなくちゃ、なんてモチベーションが上がります。山登りのトレーニングにクロストレーニングはもってこいですよ。皆さんいかが(*^_^*)(H)



ぼちぼちアルパイン復活したいんだけど、相変わらず収入が不安定で、谷川と劔の2本で終わりかもしれないわ。ヨセミテ代替案の仁寿峰も三倉岳(広島)も無理っぽい。年末年始のジョシュアもプランニング格下げ(?それも行けなくなっちゃうかも。いつまでこんなその日暮らし...つうか次号は後記書きなさいねT嬢。(M野)

原稿の書き方、送り方について。

1.入稿テキストについて

- ★ブレンテキスト形式をお願いします。
- ★文章中の「数字」「アルファベット」「記号」は半角で入力して下さい。
- ★機種依存文字は使用しないで下さい。(下図参照)これらの記号はWindowsパソコン以外では正しく表示されません。

①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩
⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳

I II III IV V VI VII VIII IX X
i ii iii iv v vi vii viii ix x

ミリキ センズーグラト、アーヘクリックツ
カロド、センバミリベ
ルドルト、セトルジ

mmcmkmmgkgccm²
平城 “ ” No.KK.Tel ①②③④⑤⑥
(株)(有)(代)明治大正昭和
≡ ≡ ∫ ∫ ∑ √ ⊥ ∠ L Δ ∴ ∩ ∪

機種依存文字

★コースタイムなどの矢印「→」「⇒」などを使用する場合は書式を統一して使ってください。

また、記号の前後のスペースは入れないでください。こちらで削除するなど手作業で統一しています

★本文中に作者の氏名を必ず入れて下さい。

★【重要】文章の適当な場所に段落を作って、読みやすく書いて下さい。段落頭の1文字下げはしなくても結構です。(編集時に一括制御します)

2.データ送付について

★ データのファイル名

ファイル名は「半角英数字」で15文字以内。スペースや「.」「/」「¥」は使わないでください。

日付+名前+ナンバリング+拡張子でよろしくです。

例) 090101mizuno.txt
090101mizuno01.jpg
090101mizuno02.jpg

3.写真キャプション

★ キャプションは本文中に記述してください。文章のどのへんに入れて欲しいかも、ご指定頂くと助かります。